

3 防災教育の実際

これまで、防災に関する児童生徒への取組は、避難訓練前後で「避難の仕方」等を主に取り上げていた。しかし、その取組では、児童生徒の自助（突発的な出来事への対応等）や主体的な行動・活動の充実を図ることができなかった。

そこで、地震津波への知識や対応の仕方、また、避難所生活のことを考え、「児童生徒が防災に対して、意識と知識を高め、自ら考え行動する力」を目指し、次の取組を実施した。

(1) 防災講習会

学部別（小学部・中学部・高等部の児童生徒の実態に合わせた）に、地震の際にどのような対応をするのかということを考え、その後、実際に起震車で地震の揺れを体験をした。自分たちで対応を考え、実際に体験することで、身を守ることの意味や具体的な身の守り方を意識できるとともに、身体（感覚）で学習することができた。

その後、防災アドバイザーより「災害時の実際の様子」の話聞くことや、「様々な災害の際の対応」について考えながら具体的な説明を受けた。

① 小学部の取組



身の守り方を知る学習



起震車体験

② 中学部の取組



身の守り方を考える学習



起震車体験



様々な災害の対応

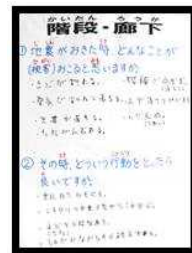
③ 高等部の取組



災害の様子を知る



起震車体験



様々な状況での対応を考える学習

(2) 避難所生活体験

事前学習では、学部別（小学部・中学部・高等部の児童生徒の実態に合わせた）に、災害ボランティアの方々とともに、災害が起きた後、どのような状況（困り）が起こるかを考え、必要な対応を考える学習を展開した。

その後、実際に必要な対応について体験を通して、「自分で考えたことがかたちになった」、「自分ができることを見つけた」、「自分たちの体験が自信につながった」、「誰かのために行動できた（支援者）」等、自ら考え行動する力につながった。

① 小学部の取組

小学部の児童は、これまで経験したことがないようなこと、災害後に考えられる状況を設定し、多くの体験活動を行った。

- ・移動体験～3階まで行けるかな？
- ・暗所体験～暗いところは大丈夫？
- ・閉所体験～狭いところは大丈夫？



水汲み体験～取りに行けるかな？～ 寝袋体験～入れるかな？～

② 中学部の取組



《寝る準備をしよう！》

校内にある物で寝具になりそうな物を探し、「布団マップ」を作成した。マップを見ながら、協力して3階まで運び、寝床を作った。



《非常食を作ろう！》

菓子とお湯を使って、ポテトサラダ作りをした。準備や片付けも簡単で、衛生面も配慮されている。



《非常口マップを作ろう！》

校内に設置されている、非常誘導灯を見つけ、マップを作成した。また、誘導灯に沿って校舎から外にでる体験をした。



③ 高等部の取組



《非常食体験》

備蓄できる食材、炭や身近にある道具を使用して、ピザ作りをした。



《設営体験》

必要な物を考え、区画作りをした。発電機の使用体験を行った。



《AED使用体験》

保管場所や注意事項等を学習した。

(3) 避難訓練

避難訓練では、地震・津波、災害後の火災を想定し実施した。児童生徒・教職員の目的を明確にして取り組んだ。

① 第1回地震津波避難訓練（移動訓練）

ア 目的

【児童生徒】

- 教職員の指示に従って行動する
- 集団の中で、落ち着いて行動する

【教職員】

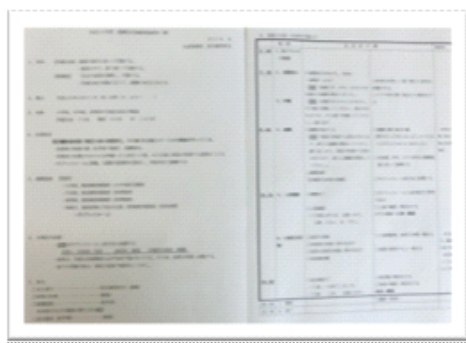
- 自分の役割を理解し、行動する
- 児童生徒の実態に応じて、避難の対応に当たる

イ 災害設定

- ・周防灘断層地震で震度6強の地震発生。その後、津波がやってくる

ウ 当日の様子

- ★児童生徒は、突発的な出来事に対応できず座り込んだり、避難せずに逆走したりした



② 第2回地震津波避難訓練

ア 目的

【児童生徒】

- 教職員と一緒に行動できる
- 教職員の指示に従って教職員と一緒に行動できる
- 教職員の指示に従って行動できる

【教職員】

- マニュアルに基づいて児童生徒の安全を守りながら避難させることができる
- マニュアルに基づいた自分の役割を理解し行動することができる
- 突発的な児童生徒の行動に対応することができる（事前の危機管理）

イ 災害設定

- ・周防灘沖で大規模な地震が発生し、大津波警報が気象庁から発令

ウ 状況設定

- ・地震後、停電になり、校内放送・エレベーター・電話の使用ができない

エ 当日の様子

- ☆泣いている児童生徒もいたが、指示に従って行動することができていた
- ★登校前だったり、トイレに行ったりしている場合の対応がスムーズにできなかった
- ★自分で身を守ることが難しい児童生徒と教職員が身を守ることができていなかった

③ 第3回地震津波避難訓練（抜き打ち）

目的・災害設定・状況設定は第2回と同様で実施した。ただし、教職員・児童生徒には実施することを知らせずに、抜き打ちで行った。また、全校行事が行われている時間帯だったので、同じ場所からの避難という設定ではじめての取組になった。



☆自分で身を守ることが難しい児童生徒は防災頭巾やクッションの携帯により、突発的な出来事にも対応できていた。

☆自力で移動ができる児童生徒は、指示に従って避難ができた。

★階段での車椅子を抱える際の体勢や、運ぶ際の困りがでた。

④ 第4回地震津波避難訓練（公開研究発表会）

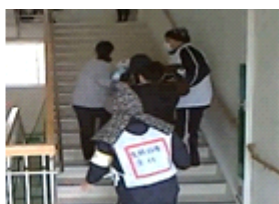
目的・災害設定・状況設定は第2回・3回と同様で実施した。公開研究発表会として実施したので、県内の幼稚園から高等学校までの教職員、地域の方等82名が見守る中での訓練となった。

☆自助のために防災頭巾やヘルメット等の着用が増えてきた

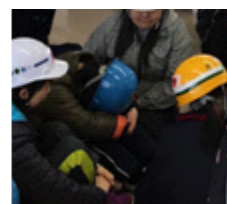
☆避難後は、学部の児童生徒の実態に合わせた対応を取ることで、避難場所で安心して待機できていた。



災害対策本部の様子



車椅子等の避難の様子



避難後の様子

⑤ 防火総合訓練

☆避難場所が校舎上階ではなく、校舎外だったが、混乱することなく教職員の指示に従って行動することができた。

☆火災の際の「低い姿勢」、「口をハンカチ等で覆う」等の行動もできていた。



通報の様子



車椅子等の避難の様子



避難の様子



救助活動の準備

(4) 自助に向けての取組

① 緊急地震速報受信システム

突発的な出来事への対応が困難な児童生徒への対応として、クラスや学年で、緊急地震速報受信システムを使用して、音に慣れる、身を守る行動を取る、避難するというスモールステップで取り組んでいった。



防災頭巾や机等を使用して身を守る様子



避難行動の様子



緊急地震速報受信端末

② 日常の取組

災害時、危険を認知することや自分の身を守ることが難しい児童生徒の対応として、日常から意識をして、災害時に備える取り組みを行っている。

《日常時》

車椅子に常備している。車椅子と同色にしたり、マジックテープで固定したりする等の配慮をしている。

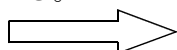


《災害時》

教職員が起震車で、揺れ・落下物等から車椅子の児童生徒を守り、自分の身も守ることを体験したことで、これらのかたちにとどり着いた。



《日常時》
ポシェットの中に防災頭巾を入れることで、持ち歩くようにしている。



《災害時》

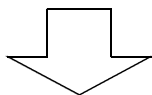
帽子等をあまり好まない生徒に、日常的にかぶることに慣れさせ、災害時にかぶることができるようにしている。

③ 授業等での取組

各授業で、防災に関する教材を取り入れることで、防災に対する意識の向上と、主体的に行動する態度の育成につながってきた。



《日常時》
家庭科で「防災頭巾」の縫い物に取り組んだ。普段は、座布団として使用している。



《災害時》

自分で作ったこと、さらにステンシルで柄をつけていくことでオリジナルの頭巾にした。そのことにより、防災への意識の向上につながり、訓練時は、自分から防災頭巾をかぶり、自分の身を守る行動を取っていた。



シールを貼ったり、イラストを描いたりして、オリジナルのヘルメットを作成した。



《災害時》

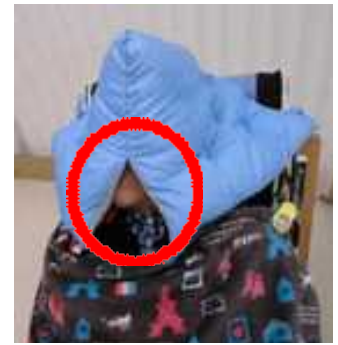
オリジナルヘルメットにしたことにより、自ら使用し避難行動へつなげることができた。

これまで取り組んできた防災学習を振り返り、さらに様々な状況を考え、深めていくことで、防災への意識と知識の向上につなげていった。





《日常時》
車椅子の背に結びつけている。
引き出して、使用できる。



《災害時》
気管切開をしているため、ふさがないように配慮をしている。



《日常時》
衛生物品や医療的ケア必要物品等とともに、ほこりよけを常備している。



《災害時》
ほこり等から守るために、常備している。
片側は、通気が確保される素材で、片側は透明ビニールの素材で保温もできる。



日常的に使用しているベッドに、転倒防止のネットを取り付けている。壁との隙間に落下することや、壁に身体を打ち付け、骨折することを防止するために、伸縮性・通気性のあるネットを使用し防止している。

④ 校内ポスター・カード

児童生徒の実態に合わせて、カードやポスターとして提示するために、データで保存し全教職員が使用できるようにしている。

